



国立公園満喫プロジェクトの 取組成果と今後の予定

1. 受入環境の整備 ①基盤整備

施策の取組と成果

- 利用拠点の再整備により、景観の改善等が進み、ビューポイントを中心に国立公園の上質化が進んだ。
 - トイレの洋式化、案内標識等の多言語化、ビジターセンターへのWi-Fiの整備等が進み、利用環境が向上。
 - 休憩施設等へのカフェ設置やキャンプ場への民間導入、民間事業と協調した施設整備(阿蘇山上VC)が進み、サービスの質的向上が図られた。
 - 登山道や遊歩道の改修、展望台や駐車場の再整備等が進み、利用施設の全体的な底上げが図られた。
- (進捗率：利用拠点リニューアル 79%、多言語化(ライティング) 83 %、ビジターセンターへのWi-Fi整備95%) (全34公園直轄施設)



【多言語化の推進】



2次元コードを活用した多言語化

直轄及び自治体施設の案内解説板やビジター展示等の多言語化を推進。2次元コードを活用したアプリにより、英・中等複数言語に対応。



【阿蘇くじゅう】



阿蘇火山博物館(民間施設)内に阿蘇山上ビジターセンターを整備(H31.3)。博物館内には民間カフェも併設され、2月には来場者数が**38万人を突破**。

その他の取組

- 直轄及び自治体のビジターセンターにおいて、解説を分かりやすく伝えるため展示のデジタル化を実施。また、**WEBサイト、パンフレット等**についても、外国人目線で分かりやすい内容で**多言語化を推進**。
- 日光湯元ビジターセンターを改修**。休憩スペースの改善に加え、テラスデッキを新設し、「くつろぎスペース」を整備。飲み物の販売も開始し、景色を眺めながらゆったり休憩できる空間を創出。
- これまでに、8公園でビジターセンターの改修8カ所、新築2カ所、展望地整備3カ所、トイレの洋式化14カ所を実施。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
多言語化(ライティング) (直轄施設における対応施設数)	1箇所 (2017年)	6箇所 (2018年)	33箇所 (2019年)	40施設 (2020年)
利用拠点のリニューアル (直轄事業で再整備を実施している集団施設地区数)	52地区・ 24公園 (2017年)	54地区・ 24公園 (2018年)	63地区・ 26公園 (2019年)	80地区・ 27公園 (2020年)
ユニバーサルデザイン (直轄ビジターセンター(69棟)の施設対応率)	79% (2017年)	80% (2018年)	81% (2019年 60/74カ所)	約90% (2020年)
長寿命化対策(長寿命化計画策定)	0公園 (2017年)	6公園 (2018年)	14公園 (2019年)	全公園 (2020年)

2020年度の取組予定

- 観光庁多言語解説整備支援事業と連携しつつ、全34公園を対象に、自治体の等施設も含めてICT等先進的技術を活用した魅力的な多言語解説整備をさらに促進。
- 駅・空港等でデジタルサイネージ等の最新のデジタル技術を活用した展示施設の導入やコンテンツによる情報発信を進め、国立公園の自然などをより分かりやすく伝える整備を進める。

先行 8 公園における直轄施設整備事例①

阿寒摩周国立公園

博物展示施設内にくつろげるカフェスペースを整備（川湯）



before



after

標識デザインの統一、4カ国語に対応した解説板整備（阿寒湖畔）



老朽化木道の再整備（阿寒湖畔）



before



after

阿蘇くじゅう国立公園

芝生広場再整備、電柱移設による景観改善（長者原）



before



after

デッキ整備、修景伐採によるくつろぎ空間創出（南阿蘇）



before



after

日光国立公園

キャンプ場の民間導入（那須高原・予定）



before



after

先行 8 公園における直轄施設整備事例②

伊勢志摩国立公園



展望地の休憩所への民間カフェの導入（横山）



十和田八幡平国立公園



利用拠点広場の再整備による上質化（十和田湖）

大山隠岐国立公園



ビーコンと連携

木道上の解説板にビーコンを設置し、アプリで多言語表示（大山寺）



バリアフリー園路整備（隠岐西ノ島）

国立公園フォントを活用した記名標識（三瓶山）



before



after

霧島錦江湾国立公園



展望台・休憩所
（佐多岬）



慶良間諸島国立公園



上質な休憩施設（北浜）

情報発信拠点（阿嘉）



1. 受入環境の整備 ②コンテンツの磨き上げ・受入体制強化

施策の取組と成果

- 自然や暮らし、文化を生かした質の高い体験の提供や、**滞在を延ばし消費単価や満足度向上**につながるよう、**国立公園ならではのコンテンツ**を充実。
- ファムトリップ等によりコンテンツを磨き上げ、**17公園のコンテンツ集2019**を作成（2018は8公園）。
- コンテンツ集を活用したプロモーション、国内外のOTA（オンライン・トラベル・エージェント）の掲載支援、ビジターセンターに予約機能を備えた**デジタルサイネージを設置**。野生動物を観察するツアー造成支援を開始。

【慶良間諸島】



国立公園コンテンツ集について、先行8公園を含む**17公園のコンテンツに拡充**。計185コンテンツ、44コースを掲載。OTA上で245名の予約（2月末時点）。



8 + 3 公園のビジターセンターに予約機能を備えた**デジタルサイネージ等**を設置し、アクティビティ等の情報を一元的に**多言語で提供**

その他の取組

- インバウンドを対象とした**野生動物を観察するツアーの開発**やそれらツアーのプロモーション等の取組を補助事業により支援。海外の旅行博への出展、**ツアーコンテンツの開発を実施**。
- 野生生物保護センターの改修のための設計業務を実施（3カ所）。
- 各国立公園の特徴・価値をビジュアル的にもわかりやすく整理した「**国立公園ストーリー集**」を作成し、地域関係者との共通認識を深化。

2020年度の取組予定

- さらなるコンテンツの充実による受け入れ体制の底上げ、コンテンツの品質・安全管理等国際的な要請への対応検討による持続力の強化。
- 長期滞在・消費額向上に寄与する、複数公園を横断する、アドベンチャー・ツーリズム市場向けモデルコースの造成。
- 国立公園ストーリー集等を活用した、国立公園のブランドの浸透及びコンテンツへの反映。
- 野生動物観光を促進するために、引き続き、観光拠点としての野生生物保護センターの活用及び民間事業者等が実施する野生動物を観察するツアーの開発等の支援を行う。
- 引き続き、ビジターセンターにおける自然を満喫するための情報提供機能の強化を推進。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
磨き上げたコンテンツ数	69 (2018.6時点値)	103	185	300
コンテンツと二次交通を組み合わせた お勧めモデルコース数	—	23	44	60コース
国立公園を含む地域コンテンツ情報の 一元化が進んだ地域数	—	4	10	10地域

1. 受入環境の整備 ③引き算の景観改善

施策の取組と成果

- ・ 廃屋撤去、電線地中化、通景伐採等の実施により、**引き算の景観改善を実施**。
- ・ 統一性を欠くエリア内の景観デザインの改善に向けた**計画策定**、それに基づく**まちなみ改善の修景等**の整備事業により、**集団施設地区をはじめとする国立公園の利用拠点において公共と民間が一体的に上質な滞在環境を創出**。

【阿寒摩周】



地域で統一されたアイヌ文様を使用し、また、隣接する建物とデザインが調和するよう、遊覧船乗り場の建物外観修景を実施



【日光】

駒止の滝観瀑台から滝つぼが眺望できるよう伐採を実施



【阿蘇くじゅう】



駐車場から印象的な山並みを望むことができるよう伐採を実施

その他の取組

- ・ 環境省所管地を主な対象とした**廃屋対策スキームの整理**
- ・ 川湯温泉再生に向け、弟子屈町と連携しつつ、**環境省において廃屋（旧華の湯ホテル）撤去を実施中**。地元の行政等が中心となり、複数の民間事業者と連携し、**地場産品を提供しながら温泉を楽しむ交流広場**としての活用を検討中。

<先行8公園の廃屋撤去実績>

- ・ 大山隠岐（大山寺参道の旅館等2件 H29）
"（三瓶山スキー場施設 H30）
- ・ 日光（旧ガソリンスタンド H30）
- ・ 十和田八幡平（見返峠レストハウス H30）
- ※現在、阿寒摩周や十和田八幡平等の廃ホテル等8件で実施中又はR2以降早期着手予定

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
撤去廃屋数	2件 (2016~2018.4)	4件	5件	12箇所 (2020年度)
景観デザインに関する計画策定数	4箇所 (2016~2018.4)	4箇所	5箇所	10箇所 (2020年度)
電線地中化など景観を阻害する施設の改善を行った地区数	5箇所 (2016~2018.4)	6箇所	6箇所	9箇所 (2020年度)
集中的な樹木の間引き、剪定による眺望確保や景観向上	18箇所 (2016~2018.4)	22箇所	25箇所	32箇所 (2020年度)

2020年度の取組予定

- 十和田八幡平では、引き続き所管地において景観を著しく阻害している廃屋の撤去に向け、建物収去土地明渡訴訟の手続きを継続的に実施。
- 市町村が中心となって地域の関係者と共同で面的な利用拠点計画を作成し、計画に基づき、廃屋撤去やまちなみ改善に加え、既存施設の観光資源化も促進。

1.受入環境の整備 ④人材育成

施策の取組と成果

- ガイドやコーディネーター等の養成、地域でのプログラム開発、ツアーデスク等の受入体制、持続可能な体制づくりの強化等を目的に、インバウンドを踏まえたキーマンとなる人材育成の支援を行った。
- また、キーマンを中心として地域での継続性・裾野拡大を重視して、地域の自主的な取り組みを支援した。

【研修による成果】

【霧島錦江湾】



研修参加者が中心となり、**新たなガイド組織を設立**するなど体制作りが進み、ツアー商品の充実により、2019年には1200名以上を受け入れ。

【阿蘇くじゅう】

研修参加者が中心となり、**ガイド事業専門の法人を設立**。地域DMOと連携して**ツアー販売開始**。



【日光】 研修参加者が中心となり**新たなガイド組織を設立**。

【大山隠岐】

オオサンショウウオの保全ツアーを官学民連携により造成。エコツーリズム推進協議会を設立し、**エコツーリズム推進全体構想の作成に向けて取り組み中**。

その他の取組

- 人材育成支援事業への参加地域を募集し、教材開発、集合研修、フォローアップアドバイザーを派遣、必要に応じてOJT受け入れ地域とのマッチングを行う。
- 集合研修参加地域において成果目標達成に向けた行動計画を策定。
- 研修参加者を中心とした、地域での自主的な取り組みを支援。
- 研修教材のデジタルアーカイブ化を進め、一般公開することで取り組みの裾野を広げる

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
行動計画に基づき、人材育成の裾野拡大などの自走化に向けて自主的に取り組んでいる地域数	—	19	30	30

2020年度の取組予定

- 人材育成事業の研修教材を紹介したウェブページを活用し、効果的で全国へ波及する裾野の広い人材育成を推進する。
- 派遣アドバイザーの人材バンク化をすすめ、地域が自由に招聘できるようにすることで、効果が全国へ波及することを図る。
- OJT受け入れ可能な先進事業者と研修地域とのマッチングを行い、より効果的で実践的な研修とする。

1. 受入環境の整備 ⑤利用者負担による保全の仕組み作り

施策の取組と成果

- 地方公共団体、地元事業者、保護団体等と連携し、国立公園における利用者負担の仕組みづくりを積極的に拡大。
- 入域料の収受だけでなく、ツアー料金への上乗せ、施設利用料の収受、飲食物等の売り上げの一部還元等、多様な手法による取り組みを実施。



【阿蘇くじゅう】



くじゅう地域のタデ原湿原園地にて、ガイド料の一部を地域の野焼き活動等の支援に還元。



【大山隠岐】

大山にて入山協力金の収受を含む社会実験を実施（8～11月）。

その他の取組

- 西表石垣国立公園の竹富島において、地域自然資産法に基づく入域料収受の取り組みが開始。（2019.9～）
- 妙高山、火打山では、これまでの社会実験の結果等を踏まえて、地域自然資産法に基づく入域料収受を2020年から開始する方向で調整中。
- 阿寒摩周、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、慶良間諸島、屋久島において利用者負担の仕組みを導入済み。

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
利用者負担の新規仕組みの件数 (入域料除く)	5 (2016～2018.7)	6	11	15 (2020年)
入域料の新規仕組みの実施数	2 (2016～2018.4)	2	3	増加

2020年度の取組予定

- 大雪山、阿寒摩周、十和田八幡平、大山隠岐、阿蘇くじゅう、屋久島、西表石垣において、利用者負担による保全の仕組みづくり構築に向けた調整を進める。
- その他地域においても、引き続き地元事業者・保護団体等との連携により、利用者負担の仕組みづくりの事例の拡大を目指す。

2.民間活用によるサービス向上 ①多様な宿泊サービスの提供

施策の取組と成果

- 分譲型ホテル等を宿舎事業として認可する規制緩和を実施する等、民間参入の促進に向けた制度を整備。国立公園内の上質なホテル・旅館の進出の機運拡大。
- 民間事業者と連携しこれまでに7公園でグランピングを実施。自然景観や文化、地域の食材やアクティビティなどと組み合わせ、民間事業者の主体的な取組の拡大に向けて支援。



【阿寒摩周】
【十和田八幡平】



和琴半島野営場及び酸ヶ湯野営場にて、アクティビティと宿泊がセットで楽しめるグランピングのトライアルを実施。



【霧島錦江湾】

写真：星野リゾート 界 霧島

2021年に鹿児島県霧島市に上質な宿泊施設が開業予定。温泉、景観、文化的な背景など、霧島ならではの資源を活かした価値の提供を想定。

その他の取組

- 国立公園の宿舎事業のあり方を踏まえ、**分譲型ホテル等を宿舎事業として認可する規制緩和を実施**。昨年9月に新たな審査基準を施行。
- 専門家同行による上質な宿泊施設誘致のための調査結果等を踏まえ、民間事業者との対話を実施。
- 今年度、大山隠岐、霧島錦江湾、足摺宇和海において、**民間事業者と連携したグランピングを実施**。

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
国立公園内の上質なホテル・旅館の数（国際的格付け機関に評価された施設数） ※2018年と比較して評価対象エリアが拡大したため、2018年時点の資料から実績値を修正	45件 (2018年)	(年内同数)	46件	増加
国立公園グランピング連携事業者数	2社	5社	6社	増加

2020年度の取組予定

- 「国立公園の宿舎事業のあり方について」を踏まえ、宿舎事業の意義を関係者が再認識し、新たな高付加価値な宿泊体験の提供と既存エリア・施設の再生・上質化に取り組む。
- 上質な宿泊施設の誘致に向けて、引き続き民間事業者との対話を実施する。
- 民間事業者と連携したグランピング等の実施について、民間事業者の主体的な取組が拡大するよう、必要な調整・支援等を実施する。

2.民間活用によるサービス向上 ②公共施設の民間開放

施策の取組と成果

- ビジターセンター等の公共施設においてカフェ等を導入し、民間によるサービス、利用者の利便性、施設の魅力を向上。
6箇所の公共施設にカフェ等の民間事業者を導入済み。エリアの年間利用者数の増加にも貢献。
- 施設の整備・運営を官民連携で行い、民間事業者の創意工夫を取り入れながら、サービスの質の向上を図った。

下山野営場(整備イメージ)

【大山隠岐】



サービス提供イメージ

(写真: 株式会社モンベル)

環境省として初めて設計・工事・運営等を一体的に行うDBO方式により公募し、株式会社モンベルを代表法人とする共同事業体を選定。令和3年度から同社が運営者となり、施設の供用を目指す。



【日光】

日光湯元ビジターセンターに新しく整備した「くつろぎスペース」に**地元の事業者が試験的に出店し、飲食物を提供。**

その他の取組

- 阿寒摩周の既存キャンプ場について、民間サービスを活用したサービス向上等を目指し、**管理運営者の公募を実施。**
- 環境省所管地の土地・建物の使用許可期間の改定、カフェ等の導入に関する留意点等を整理したガイドライン作成、野営場設計・施工・運営の一体契約に関する留意点の整理を実施済み。
- 阿寒摩周、伊勢志摩、慶良間諸島、日光において、公共施設にカフェを導入済み。

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
新たに民間事業者を導入した公共施設数	1箇所 (2016~2018.4)	4箇所	6箇所	7箇所 (2020年度)

2020年度の取組予定

- 日光国立公園キャンプ場再整備においても、PPP/PFI手法導入に向けた検討を進める。
- 慶良間諸島国立公園の座間味ビジターセンター整備にあたり、運営コンセプトやデザインについて専門家の意見を聞き上質化を図るとともに、民間カフェ部分含む一体的な管理運営体制構築の検討を進める。
- その他のビジターセンター等へのカフェや売店等の導入について、民間事業者と対話しながら検討を行う。
- ビジターセンター、キャンプ場、遊歩道等の一定地域内の施設の一体的な管理運営等について、地元関係者等によるエリアマネジメントの観点も含め、官民連携手法の成立性等について検討する。

2.民間活用によるサービス向上 ③民間事業者との連携

施策の取組と成果

- ・ オフィシャルパートナーシップを75社と締結。企業と環境省が相互に協力し、機内誌・ウェブ・施設等でのPR、キャッシュレス化等受入環境整備、旅行商品の造成等の様々な取組を展開。
- ・ 主要空港・駅等から国立公園への公共交通機関によるアクセスや拠点間の周遊など、関係省庁・自治体・民間事業者と連携して二次交通の課題改善を推進。

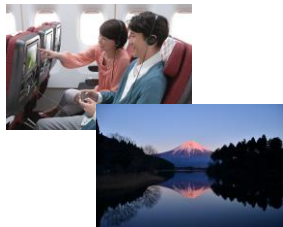
【オフィシャルパートナーシップ企業の取組事例】



ツーリズムEXPOにおけるパートナーシップ企業との連携による旅行会社等EXPO参加者向けのセミナー開催。



各パートナーシップ企業の情報発信媒体あるいは商品ツールに活用して、国立公園をPRあるいはツアー商品として発信。



JAL国際線における機内番組にて国立公園動画を放映。

その他の取り組み

- ・ 訪日外国人向けに2019年12月～2020年3月まで、鳥取県全域・島根県東部の路線バス・ローカル鉄道が3日間乗り放題になる交通バスを販売。
- ・ 伊勢志摩国立公園の志摩市において、実証実験として2020年1月～3月にオンデマンド交通を含む電車やバス等の乗車券類のほか、旅行商品の「検索・予約・決済」の一本化を図るMaaSアプリ「ぶらりすと」を公開し、サービスを提供。

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
オフィシャルパートナー数	49 (2018年)	61 (2018年)	75	増加
二次交通に関する新規取組数 (うち、自立的・継続的な取組数※) ※補助金等を受けずに運営しているもの	14 (8) (2016～2018.3)	24 (13) (2016～2019.1)	37 (22) (2016～2019.12)	増加

2020年度の取組予定

- パートナーシップ企業と各国立公園、パートナーシップ企業同士のマッチング機会の提供等により、引き続き商品造成やプロモーション等の事業化を促進。
- オフィシャルパートナーシッププログラムの取組をより魅力的なものとして効果的に情報発信。
- 引き続き関係省庁・自治体・民間事業者と連携して二次交通を改善。今後、体験型コンテンツと連動させた支援メニューも検討。

3.プロモーション その1

施策の取組と成果

- 日本の観光情報の発信は、日本政府観光局が国・地域・民間等と連携しつつ実施。国立公園情報についても、**JNTO サイト内に、国立公園サイト（環境省管理）を設置し、予約まで一気通貫で可能に。**
- さらに、メディア・SNS等を活用し、**外国人向けプロモーションを実施し、日本の国立公園サイトへ誘引し、実際に国立公園に足を運んでもらうため、国立公園の認知度を向上させる。**

<対象国ごとのプロモーション状況>

2020.2.10時点

中国：**インフルエンサーマーケティング**（1インフルエンサーが1国立公園を取材し複数SNSに投稿）。8人アサインし7公園（慶良間以外の先行7公園）をプロモ。1SNSに2～6の記事・動画を掲載。**全て済。**

webメディア。記事掲載。伊勢・十和田・大山・阿蘇・日光対象。**全て済。**

韓国：**ブログ**。6名アサインし大山・阿蘇・霧島対象にプロモ。**全て済。**

香港：**webメディア**。阿寒・慶良間。**全て済。**

英米：**webメディア**。伊勢・十和田・日光。**全て済。**

ドイツ：**webメディア**。阿蘇・霧島。今後掲載。**全て済。**

英語圏：**BBC**。8+3公園。バナー、web記事、テレビ番組等。**全て済。**

webメディア。ラグビーワールドカップ時期に合わせて阿蘇・十和田・日光をJTBラグビー特設サイト上、Live Japan等に記事掲載。**全て済。**

SNS (instagram, facebook)。営業日毎日更新。自然風景写真等。

※公園名は簡略化して記載。例：霧島錦江湾→霧島 ※新型コロナウイルス発生以降、一部プロモは中止。

※先行8公園（阿寒・十和田・日光・伊勢・大山・阿蘇・霧島・慶良間）、+3公園（支笏・富士・中部山岳）

その他の取り組み

- 国立公園統一マークの活用
- 国立公園公式Instagram、Facebookを開設、現地レンジャーにより公園の魅力を発信
- 成田・羽田・熊本・大分空港等において、デジタルサイネージによる国立公園動画を放映
- 新宿御苑インフォメーションセンターを中心に国立公園等に関する展示設備の設置やPRコンテンツの作成等**
- 国内外の旅行博や商談会において旅行会社やメディア等とのビジネスマッチングを実施（VJTM2019では183商談実施し、15件程度の商談が成立あるいは商品化に向け調整継続中）

成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2020.1)	目標値
公式Facebookファン数	56,822 (2018.5)	69,788	110,473	150,000 (2020年)
公式Facebook新エンゲージメント率 （投稿を見た人に占めるいいね！等の積極的反応を行った人の割合）	7.1% (2018.6)	8.2%	9.5%	毎月平均 5%以上
国立公園ウェブサイトPV数	- (2019構築予定)	-	185,278	増加

2020年度の取組予定

- 東京2020オリンピック・パラリンピックに伴うインバウンド向けの情報発信（内容検討中）。
- 日本博事業により、科博・NHKワールドと連携し、企画展「国立公園」等による国立公園PR。
- 長期滞在・消費額向上のためグランピングを含めたアドベンチャートラベル層向け情報発信の強化。
- オフィシャルパートナーシッププログラムの取組をより魅力的なものとして効果的に情報発信。

3.プロモーション その2 デジマケ概念図



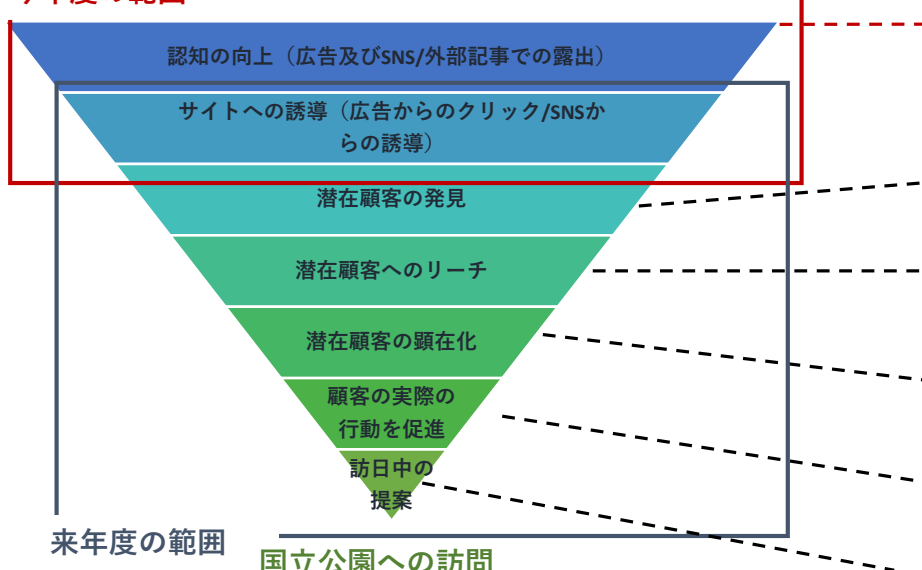
3.プロモーション その3 デジマケの現状と今後

認知度向上施策の実施目的

1. 観光プロモーションでは、まず「日本の国立公園」について知ってもらうこと（認知度向上）が必要。それにより、日本を訪れること及び日本訪問の際の国立公園訪問を想起させることにつながる。知ってもらうことから、全てが始まる。
2. なお、認知度向上とともに、本年度のプロモーションにより獲得したユーザーデータを分析することで、より**国立公園利用確度の高いユーザーの属性を特定する予定**。
3. 来年度以降は、その高確度潜在ユーザーへのターゲティング広告や記事、動画を制作し、**当該ユーザーが興味を持つ媒体へ集中的に出稿することで、より効果的・効率的なプロモーションを行う**。

「プロモーションの各フェーズ」

今年度の範囲



広告/記事/SNSを活用することで国立公園を認知してもらい、JNTOサイトへ誘導。潜在顧客のデータを獲得・蓄積する

認知度の指標

ページビュー: **185,278** (2019/4~2020/1)

ユーザー数 : **99,723** (2019/4~2020/1)

サイト訪問ユーザーの行動を分析し、国立公園利用する確度の高い潜在顧客を発見

→Google Analyticsによる興味関心分析及び参照元サイト分析

確度の高い潜在顧客に対し、ターゲティングを行い、広告/記事広告/動画広告などを用い、接触する

→分析結果を利用したGoogle Display Network等でのターゲティング

接触後に様々なサイトコンテンツを提供し、日本及び国立公園への行動欲求を呼び起こす

→記事コンテンツ・動画コンテンツ等の制作・露出

外部サイトへの誘導と予約への導線を設計し、国立公園訪問という実際の行動を促す

→予約サイトへの導線設計

訪日中に国立公園へ想起させ、さらに利用を促進する

→Google Display Network等でのリターゲティング

● ユーザー ● ページビュー数



4. 関係省庁や地域との連携

施策の取組と成果

- 関係省庁連携により観光ビジョンに基づく各施策をさらに効果的に推進するとともに、**地域のニーズに応じた適切な交付金等の支援制度の活用によって、公園区域外も含めて地域で実施する事業との連携も図った。**
- 地域協議会の開催及び広域連携DMO等との連携によって、地域一体となった取組を推進した。

【阿蘇くじゅう】【霧島錦江湾】ほか



九州中部・南部の4地方銀行と環境省で、国立公園資源の持続的な活用など地域循環共生圏に関する連携協定を締結。
(R2.1)

【阿寒摩周】
【日光】



(株)地域経済活性化支援機構の「観光遺産産業化ファンド」により、民・官・公・金の連携で国立公園を地域の観光資源として磨き上げる取組について、北海道東エリア（阿寒摩周）に加え、栃木エリア（日光）においてもR1.12に地銀出資決定、具体検討を開始。

その他の取り組み

- 観光庁や文化庁、内閣府等の交付金等を活用して、プロモーションやガイド育成、マーケティング戦略基盤整備等の取組を地域で実施したほか、運輸局が主体となり二次交通改善の実証事業等を実施。

2020年度の取組予定

- 引き続き地域のニーズに応じた支援制度の活用や広域DMOとの連携を図ることにより、地域が一体となって関係する施策を効果的に進める。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
省庁連携による取組数 (交付金活用を含む)	32 (2017年度)	26 (2018年度)	23 (2019年度)	40 (2020年度)
先行8公園における公園外の取組数	41 (2017年度)	51 (2018年度)	71 (2019年度)	50 (2020年度)

5.体制強化

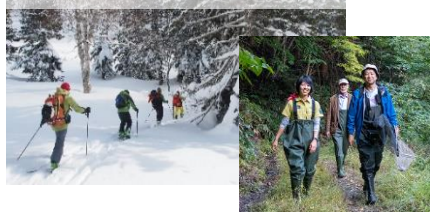
施策の取組と成果

- 14カ所の国立公園において、公園を統括する「**国立公園管理事務所**」を**新規設置**。所長の着任、保護管理と利用の企画官が増員され、プロジェクト実施の体制強化により、関係機関との連携推進、プロジェクトの各種取組が実現。
- 地方自治体や観光協会等の体制が強化され、地域の各種取組が推進。

- 先行8公園（慶良間諸島除く）、準ずる3公園、吉野熊野国立公園、奄美群島国立公園に国立公園管理事務所を設置。所長の配置によるハイレベルな調整の実施により取組が飛躍。
- 民間経験者の利用企画官の新規採用により、経験を生かしたコンテンツ造成や情報発信を実施。



ファミトリップや関係者との連携によるツアー造成



エリアの再整備に向けた地域対話



国際パークサポーターの立ち上げ

その他の取り組み

- みちのく潮風トレイルの全線4月開通の機会を捉え、外国人にとっての新たな魅力の発掘、利用プログラムの検討、施設の整備、広報等を一体的に図る目的で名取自然保護官事務所を設置。
- 利用拠点の再生を担う専門官**を配置。（阿寒摩周、十和田八幡平）
- 地元自治体・観光協会の体制の強化。

2020年度の取組予定

- 訪日外国人利用者の多い、大雪山国立公園、上信越高原国立公園に、国立公園管理事務所を設置予定。（2箇所）
- 効果の見込まれる国立公園において、利用企画官を配置。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
現地レンジャー数	150名 (2018年度)	(年度内同数)	177名 (2019年度)	200名 (2020年度)

6.全国展開

施策の取組と成果

- ・ 滞在期間の延伸、消費額の増加等につながる国立公園をテーマにした周遊の促進や自然体験コンテンツの上質化・磨き上げといった取組を支援する事業を7件採択し、支援を開始。
- ・ 国際観光旅客税等の財源を活用しつつ、先行8公園での取組事例を全国的に展開するよう自治体・民間事業者へ支援を行った。
- ・ 自然公園制度の見直しに向けて有識者からなる検討会を設置し、国立公園での利用や公園事業等のあり方等について検討を開始した。



先進的インバウンドプロジェクト支援事業 採択地

- 【阿寒摩周】
「摩周・屈斜路エリア冬期
エコツアー開発事業」
- 【支笏洞爺】
「支笏洞爺国立公園支笏湖地域における
『持続可能な観光・まちづくり』」
- 【日光】
「奥日光地域ネイチャーガイド
コンテンツ開発事業」等
- 【富士箱根伊豆】
Best of the Fuji 富士山ラグジュアリー
ツーリズム企画推進事業



国立公園でのインバウンド対応に向けたガイドブックを2019年3月に作成し、地域に共有

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
先行8公園の成果を共有する ツール制作	1件 (2017年度)	1件 (~2019.1)	2件 (~2019.12)	3件 (2020年 度)
自然公園法等に関する制度 見直し	使用許可期 間の延長(3 年→10年) (2017年度)	—	自然公園 制度のあ り方検討 開始	制度見 直し (2020年 度)

2020年度の取組予定

- 先進的インバウンドプロジェクト支援事業により地域の先進的な取組を2019年度に引き続き支援。
- 自然公園制度のあり方については2019年度中に取りまとめる予定の提言を踏まえ、具体の対応を検討。